



創立1880年

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館6階

Tel 03-6302-1960

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

発行所 公益財団法人

東京YMCA

発行人 星野太郎

東京YMCA 5

2025

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

東京YMCA資料室30年 後代に継ぐ YMCA運動の軌跡

東京YMCAが本格的に資料整理を始めたのは1994年。以来、30年以上にわたり、会員ボランティアによる保管・整理作業が続けられていす。現在の資料室は早稲田の本部事務局内にあり、時にメディアや研究者への情報提供(レファレンス)も行っています。東京YMCAは1880年、明治維新といわれる時代に、新しい日本を目指した青年有志らによって設立されました。その後、北米YMCAの協力を得て、神田に初代会館を建設。その大講堂ではアインシュタインや内村鑑三、板垣退助など著名な思想家などが講演を行いました。1916年には日本初の温水プール

付き体育館を建設。日本の社会教育事業を導いてきました。資料室には、その140年余にわたる資料が保管されています。関東大震災による焼失、戦後GHQによる会館接収や移転などで失われたものも多いですが、会報や事業報告書、書簡や写真など、社会的にも価値ある資料が数万点、收藏されています。

1997年からは「YMCA史学会」が資料をもとにYMCA史の学びと継承を続けており、資料室の意義をより深めています。(広報室)

*資料の閲覧をご希望の方は電話03-6302-1960まで



ノンフィクション作家の山根一真氏が1975年に創案した「山根式袋ファイル」を活用し、膨大な資料が探しやすく整理された資料棚



東京YMCA資料室の入口。YMCAの創立者ジョージ・ウィリアムズ(1821~1905)の墓(ロンドン、セント・ポール寺院の地下墓地にある)の拓本が飾られている



キリストの福音を証する業を求めて、YMCAの表徴として資料室に大型聖書と聖句が掲げられている



J. T. スウィフトが建設した初代東京YMCA会館(1894年3月~1923年9月)



東京YMCA創立直後に発行された、初の機関紙『六合雑誌(りくごうざし)』創刊号(1880年10月)



東京YMCAの神田への移転後、誌名を『基督教青年』に改めた機関紙(第4号、1905年12月)



東京YMCAの略史はこちら

担当職員として
(1994~1996年度担当) 高田京子

1994年、初めて訪れた資料室には、古い写真や書類、パンフレットや本などが入った段ボールが数百個、積み上げられていました。どう整理していいか途方に暮れていた時、百年史執筆者でもある齊藤さんが協力くださることに。本格的な資料整理が始まりました。

文書や写真を一つずつ見て選別し、説明を書き添え、手作りのファイルに保管し、分類コードを貼って表紙をつける。取り組んできた先達の足跡が見て取れます。YMCA運動のエネルギーが脈々と息づいている場所です。

「R・モットさんで、ここにいるのが私でね...」など思い出を聴きながらの作業は楽しく貴重な時間でした。時おり退職主事や会員も来室され、一緒に資料を見ながら語り合うこともあり、多くを学ばせていただきました。

資料から見るとYMCAは、実に多様でユニークな著作や、会員たちの論文、戦中戦後の事業報告や手記など。その姿は時代によりさまざまに変化しますが、いつの時代にも、社会課題に真面目に取り組んできた先達の足跡が見て取れます。YMCA運動のエネルギーが脈々と息づいている場所です。



資料室30年!

齊藤 實

東京YMCA資料室は、神田美土代町の第3代会館の8階で機能し始めました。震災や戦災や移転があつて大事な資料を失ってはいませんが、それでも145年に及ぶ歴史を想起するにふさわしく、「年次・事業」ごとの資料を閲覧できるように整備中の宝庫です。

私がボランティアとしてこの資料室での作業に携わって今年で30年になります。さきの戦争が終わった翌年の1946年に会員になった私はこの春98歳になりましたが、会員活動でクラブ幹事を2年体験してから33年間は職員でした。「我等八皇室ヲ尊ビ国体ヲ重シ皇国ニ忠誠ヲ捧グ」という文言を会員編纂に掲げてYMCA活動を進めた「大日本帝国時代のYM

CA会員として生きた」方々とも面識がありました。今は、月水金の週三日、資料室に出ています。手に取った古い資料が私が書いたものであつたりして、「まあ、よく頑張ったよな」など、思いにふける場面もあつて楽しい作業です。

あと二年で30周年を迎える「YMCA史学会」は、この資料室で発足しました。ここは、会員であってもなくても、YMCAの働きを手にとつて見る事が出来る「YMCAアーカイブズ」なのです。



『東京YMCAの歴史』著者 齊藤実さんはこちら

赤三角

私にとってのYMCAは「偏見がなくなる場」である。▼学生時代、完全看護体制で行う病院のキャンプに参加した。また、バイトの先輩に誘われてYMCA活動にも参加した。▼病院のキャンプでは、難病の子どもたちへの接し方がわからず、理由のない怖さを感じた。YMCA活動では、歌つたりお祈りをしたりする環境や、障がいのある子どもたちの活動で、どうして良いかわからず怖かった。それはきっと、経験したことがない環境で、接したことがない人たちと交わることへの恐怖だったと思う。しかし、深く関わるうちに、頭ではなく心でそれらを受け入れ、変化し、徐々に楽しみへと変わっていった。無意味な先入観がなくなったのだと思う。

▼このことは、我が子にも感じている。幼少期からYMCAと関わり、障がいのある子どもたちと一緒にプールやイベントに参加してきた。YMCAでは、周りが高齢者の方々にいつもかわいがられ、お祈りもする。それが当たり前だから、障がいの有無や年齢、生活環境の違いに対して、差別や恐怖、排除する感覚を持たない。このことこそ、YMCAという空間の素晴らしい一面だと感じる。(YMサービス(株) 由井卓哉)

2025年度 サマープログラム

子どもたちにとって、夏休みは心身ともに大きく、たくましく成長する時です。さまざまな体験を通して子どもたちの大切な夏を「特別」にする、東京YMCAのサマープログラムについてご紹介します。

🚶 キャンプ

野外教育・ユースでは、豊かな自然環境の中、ユースリーダー（以下、リーダー）と過ごす小集団での生活を通して、キャンパー一人ひとりの「限らない成長」を願い、今年度は13のキャンプを予定しています。

私自身、約15年間スタッフとしてYMCAキャンプに関わってきましたが、同じキャンプは一つとしてありませんでした。それは、毎回異なる仲間と出会い、それぞれの色加わるからです。

私は、「キャンプは不自由を楽しむ場所」と考えます。日常とは異なる環境で、時には戸惑いや苦勞、不便さを感じながら、当たり前ではない状況をどう楽しむに変えていくか、どう乗り越えていくかを仲間と一緒に考え、工夫し、実践していきます。その一つひとつの体験こそが心身を大きく育て、日常生活に生かせる力へと繋がっていきます。

そのような貴重な体験を、より豊かなものにするのがリーダーの存在です。リーダーは、物理的にも精神的にも常に子どもたちのそばに寄り添い、先生や保護者とは異なる立場から、一人の仲間として子どもたちと関わります。その姿は、子どもたちの憧れであり、良き手本でもあります。また、リーダーや仲間と過ごすキャンプの中では、自己表現の力が自然と育まれます。そして、自分を大切にしながら、他者への思いやりの心が育っていくのがキャンプです。(野外教育 杉田裕樹)



アーチェリーに挑戦



リーダーと一緒に水遊び

🏊 水泳

健康教育では、「短期水泳クラス」と「プールのスクール」を実施しています。

短期水泳クラスは、水慣れから4泳法のフォーム完成までの段階的な習得を目指し、初めての参加者でも無理なく楽しめるプログラムです。「自分のいのちとみんなのいのちの大切さ」を考え、命を守る方法を伝えることを大切にしています。このクラスでは、成功体験を積み重ねることで、子どもたち自身が小さな「やってみよう」を大切に、次の挑戦へとつなげられるよう指導しています。「できた!」という経験は子どもたちに自信や達成感を与え、日々の成長を実感できるだけでなく、技術的な向上にもつながります。

プールのスクールは、少人数のグループ活動（工作、クッキング、公園遊びなど）と短期水泳クラスを組み合わせ合わせたプログラムです。各グループにボランティアリーダーが参加し、プログラムを通じて仲間とのつながりを深めることに重きをおいています。リーダーや仲間との関わりが「楽しい」「やってみよう」「できた」「ありがとう」といった大切な気持ちを引き出し、充実した毎日を送ることができるよう関わりをもっています。日を重ねるごとに笑顔が増え、お友だちへの感謝の気持ちが溢れるプログラムです。(山手ウエルネス AD 安保伸江)



水泳クラス



プールのスクールの工作の時間

🗣 英語

キッズ英語の夏のプログラムは、テーマ(例: Under the Sea)をもとに、STEAM(*)の視点から多彩な活動を行います。

実験(Science)やクラフト(Art)、計量してお菓子を作るクッキングなど、Mathの要素が組み込まれ、英語を「学ぶ」のではなく、「使いながら活動する」プログラムです。東京YMCAインターナショナルスクールの施設を利用し、まるでアメリカの学校に通っているような5日間を送ります。そして、ネイティブ講師による英語のシャワーを受け、子どもたちは自然と英語に慣れていきます。

また、ボランティアリーダーが日本語と英語で子どもたちをサポートします。初日の緊張気味な子どもたちを元氣よく迎え入れ、コミュニティー作りも大事にしています。

昨今はアプリやオンラインなど手軽に英語を学べる学習ツールが増えていますが、YMCAに来るからこそ出会える仲間やリーダーがいます。共に活動する中で、子どもたちは社会性を育み、新たな発見や英語の環境が世界へ繋がるきっかけとなることでしょう。(語学教育 染井光優)

*Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Art (芸術・教養)、Mathematics (数学) の分野を教科横断的に楽しんで学ぶグローバルな教育



ネイティブ講師によるSTEAM教育



子どもたちを優しくサポートするリーダー

🎵 カルチャー

YMCAの習い事は、単にスキルアップだけを目的としたものではありません。私たちが大切にしているのは、「人としての成長」です。一人ひとりの「人としての成長」を見守りながら、生徒に寄り添い、生徒と一緒に楽しむことを重視しています。

ほとんどの講師は20年以上の指導歴を持ち、その豊富な経験を生かした親身な指導が持ち味です。それにより、講師と生徒の間に強い信頼関係や絆が生まれ、長く通い続けている生徒も大勢います。

また、YMCAは、障がいのある方も安心して受講できる環境を整えています。例えば、ピアノクラスでは、知的障がいのある生徒がいつも先生と連弾して、聞く人の心を和ませてくれます。生徒が旋律を弾き、講師が伴奏し、今できることを一緒に楽しみながら、音楽に親しんでいます。

YMCAのカルチャークラスには、「学び」以上の価値があります。子どもから大人まで、誰もが輝ける一それがYMCAのカルチャークラスが目指す「学び」のかたちです。(山手センター 宇垣圭子)



講師が優しく指導するピアノクラス



集中して練習する書道クラス

プログラム参加費補助制度 フレンドシップファンド

「フレンドシップファンド」は参加費の補助制度(所得制限あり)で、費用の面で参加が難しい子どもたちにも安心して東京YMCAの活動を体験してもらうための制度です。

すべての子どもが経済的な事情に左右されず、かけがえない仲間と出会い、豊かな経験を通して、心身ともに健やかに成長してほしい—そのような願いに賛同して下さる多くの個人や法人のご寄付により成り立っています。

このファンドを利用してプログラムに参加したご家庭からは、「友だちができたことで、前向きになって帰ってきた」「子どもの成長を感じられた」など、喜びの声が数多く寄せられています。その一部をご紹介します。



2025年度 サマープログラム フレンドシップファンドの詳細はこちら

小2男子

カレーをはじめてつくりました。もやすのにちょうどいい木のぼうがたくさんありました。おいしくつくれて、うれしかったです。カヌーにもりました。こぐのがたのしかったです。アーチェリーもしました。うつときにワクワクしました。ぼくは、今回はじめてキャンプに行きました。行く前はカヌーが一ばん

たのしみで、行った後はカレーづくりがたのしかったです。また行きたいです。

小2女子の保護者(一部抜粋)

キャンプを終えた娘を迎えに行くと、現地で仲良くなったみんなでお互いをあだ名で呼び合い、いつまでも名残惜しそうにお話ししていました。少し内気でマイペースだと思っていた娘が、楽しく輪に入って、友だちが困った時には駆けつけて助けてあげたと聞き、学校とはまた違う自分の一面を出せたのかなと思います。

アーチェリーをした時に、的の真ん中に当てられたことをボランティアリーダーさんからうかがい、娘も自慢げにそのことを話してくれました。

キャンプでリーダーさんたち、仲間たちと一緒に生活、活動をする中で、喜びや、時には失敗も分かちあって、励ましあったり、笑いあったり、たくさんの貴重な体験と成長の機会を与えていただきました。このような機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。



小2女子の絵「プログラムの思い出」

第34回 東京YMCAチャリティゴルフ大会を開催

34回目を迎えた「東京YMCAチャリティゴルフ大会」が4月10日、千葉県成田市のP.G.M総成ゴルフクラブで開催されました。今年は78人の



満開の桜の下、ゴルフを楽しんだ参加者

参加者が、21グループに分かれて、ゴルフの腕前を競いました。ゴルフ場内の随所に桜の木が多く見られ、プレ

景が目に入ります。この数日での桜も散り始めていましたが、ラウンド中に時折強い風が吹くと、その花びらが見事な花吹雪となり、春の陽気を存分に感じながらプレーを楽しんでいただけました。プレー終了後には、お楽しみ抽選会を行いました。毎年、この大会の趣旨にご賛同いただく企業や個人の皆さまから色々な賞品をご提供いただき、くじ引き抽選により賞品を差し上げています。ゴルフにちなんだも

の感想をいただきました。この大会のチャリティは、「能登半島災害復興支援」「フレンドシップファンド」に用います。当日は、プレー中にチャリティホールを設け、募金のお願ひもさせていただきました。ゴルフを通じて楽しみながら、皆さんのチャリティにご協力いただきましたことに感謝申し上げます。(会員部 熊沢佳代)



当日朝に購入する、大好評のお土産セット

野の花、空の鳥

東京YMCA総主事 星野 太郎



「孤独は山奥にはなく、都会の中にある」秋田の田舎から東京に出てきた大学一年生

「孤独は山奥にもあり、集団の中にこそある」カナダのYMCAキャ

孤独に耳を澄ます

「孤独は山奥にはなく、都会の中にある」秋田の田舎から東京に出てきた大学一年生た孤独は「寂しさ」でし

一人ひとりの中に「辛い」ほどの孤独はないか、それを覆って見えないようにしている人はいないか。特にこの時期、私たちは誰かの声なき孤独に耳を澄ませる存在でありたいと思います。

東雲地域の学童クラブ

子どもの声に耳を傾け、居場所を共に生み出す

2023年4月に「こども家庭庁」が発足し、こどもまんなか社会 実現のための取り組みが進められています。

東京YMCAの居場所事業では、それに先立つ2021年から「こどもまんなか」の実践に向けたスタッフ研修を重ね、2024年度はスタッフ一人ひとりが自分の「あたりまえ」を問いつつ、子どもとの関わりを深く考える一年となりました。

今回は、東雲地域の3つの「江東きつずクラブ」(※)での2024年度の子どもたちとの関りや意識の変化について、各クラブの主任に話を聞きました。

※東京YMCAが運営する江東区の公設学童クラブで、江東きつずクラブ東雲児童館(以下、児童館)・江東きつずクラブ東雲第二(以下、第二)・江東きつずクラブ東雲第三(以下、第三)。小学1〜3年生が在籍。

「児童館」では、「子どもたちの『やりたい』」を大切にすることを常に意識しました。誕生日会について子どもたちと話し合い、内容や司会進行を一緒に考えること

「第二」では、子どもたちの意見を傾けるだけでなく、行きたいことを実現しました。「第三」でも、誕生日

「第三」の夏祭りでは、自分たちで学校の先生に手作りの招待状を渡したところ、夏休みにもかかわらず先生が来訪されました。子どもたちにとって、「自分たちの声や行動に大人が応えてくれた」という経験が、自信

また、学童クラブとして、地域の中でも過ごしやすい居場所を生み出すために、地域とのつながりも大切にしています。

このように、居場所事業では今、組織のなかで一つのチームとなり、子ども・若者の真の居場所を生み出すことを目指しています。この大きな変化の土台には、スタッフ一人ひとりの声をもとに3年かけて作られた行動指針『わたしたちの約束』があります。居場所を生み出す担い手として大切にしています。(広報室)

「第三」の夏祭りでは、自分たちで学校の先生に手作りの招待状を渡したところ、夏休みにもかかわらず先生が来訪されました。子どもたちにとって、「自分たちの声や行動に大人が応えてくれた」という経験が、自信

また、学童クラブとして、地域の中でも過ごしやすい居場所を生み出すために、地域とのつながりも大切にしています。

このように、居場所事業では今、組織のなかで一つのチームとなり、子ども・若者の真の居場所を生み出すことを目指しています。この大きな変化の土台には、スタッフ一人ひとりの声をもとに3年かけて作られた行動指針『わたしたちの約束』があります。居場所を生み出す担い手として大切にしています。(広報室)

また、学童クラブとして、地域の中でも過ごしやすい居場所を生み出すために、地域とのつながりも大切にしています。

このように、居場所事業では今、組織のなかで一つのチームとなり、子ども・若者の真の居場所を生み出すことを目指しています。この大きな変化の土台には、スタッフ一人ひとりの声をもとに3年かけて作られた行動指針『わたしたちの約束』があります。居場所を生み出す担い手として大切にしています。(広報室)



豊洲の公園を管理する方から教えてもらい、種まきを体験した



スタッフと一緒に、元気いっぱい遊ぶ子どもたち

「第三」の夏祭りでは、自分たちで学校の先生に手作りの招待状を渡したところ、夏休みにもかかわらず先生が来訪されました。子どもたちにとって、「自分たちの声や行動に大人が応えてくれた」という経験が、自信



居場所事業スタッフ必携の『わたしたちの約束』



連携して東雲地域の居場所づくりに励む、(左から)大竹薫子主任(児童館)、鈴木真理子主任(第三)、玉田ゆき子主任(第二)

いんぷおめーしょん INFORMATION インフォメーション

■早天祈祷会(6月)■

会員有志が聖書について自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で祈り讃美歌を歌います。クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日時:2025年6月2日(月) 7:00~8:00

奨励者:鈴木功男氏(日本基督教団全国信徒会 東京信徒会)

会場:オンライン/山手センター

問合せ:会員部(03-6278-9071)

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支えて下さる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していただけることを願っています。



詳細はこちら

ミャンマー地震 緊急支援募金のお願い

3月28日に発生したミャンマー大地震の被災地支援のため、全国のYMCAは緊急支援募金を行っています。

東京YMCAでは、これまで各地で街頭募金を実施した他、交流のあるミャンマー・ネピドーYMCAとも連絡を取り、支援を行っていく予定です。

皆さまのご協力をお願いいたします。



被災したネピドーYMCA

【募金期間】2025年5月31日まで

【募金の送金先】

◆三井住友銀行 神田支店 普通 7631486 ザイ) トウキョウワイエムシエイ

◆web募金はこちら(クレジットカード払い)



募金の詳細はこちら

【お問合せ】東京YMCA会員部(03-6278-9071)



ワイズコーナー

Y'S MEN'S CLUB

Vol.27

「みつかる つながる よくなっていく」 不登校児への取り組みから③

「不登校が問う日本の教育」というテーマで連続講演会を企画したことがあります。2025年3月の講演会のゲストスピーカーは、自転車競技で活躍をしている選手でした。彼は小2で不登校になり、特に中学の3年間は家に閉じこもり続けたそうです。その体験を語る彼の言葉に感動しましたので、ご紹介します。

「中学では劣等感、絶望感で精神的にも落ち込んでいた。兄が高校の自転車競技部ということもあって、ロードバイクを買ってもらい、そこからサイクリングが好きになった。暇さえあれば自転車で近くの山登りをしていた。おじさんたちが多い自転車チームにも入り、そのコーチが自分の素質をほめてくれた。本格的にやってみたらと勧められ、自転車競技の本場フランスにも行ったが、レベル差が大きく挫折。しかし、これまでを振り返って、『学校へ行かないからダメ』とか、『もう人生終わり』とは思わない。『長い人生の中で、楽しいこと、頑張りたいこと見つけたら、そこからできる。自分の好きなことを見つけることが大切だ』と言える。学校に行っていないなくても何か得意なものを見つけたらラッキー。『大人は目標を作り、子どもが学ぶ。子どもは目標がなくても好きなことはする。子どもは大人になる準備期間ではない。好きなことを見つける期間ではないか? ダメな自分でも、好きなことに動き出した時の心の強さ、そしてそれを待つ親の強さが大切だと思う。自分にとっては、おかあさんがただ一人の自分の味方だった』。(ワイズメンズクラブ国際協会 東日本区理事 山田公平)



動画でわかるワイズメンズクラブ

2025サマープログラム

YMCAキャンプは2020年に100周年を迎えました



2025サマープログラム受付開始

水泳・英語・リトミック 6月3日(火)12:30
キャンプ 6月5日(木)12:30



キャンプ、日帰りキャンプ、英語、水泳など、多彩なプログラムがあります!詳しくは、ホームページで

【参加費補助制度(フレンドシップファンド)】

参加費補助制度をご用意しています(所得制限あり)。詳細はお問い合わせください(フレンドシップファンド担当 03-6302-1960)。

高尾の森わくわくビレッジ ボランティアリーダー募集!!

高尾の森わくわくビレッジでは、小学生や中高生を対象に様々なキャンプなどのイベントを行っています。

そのようなイベントは、わくわくビレッジのスタッフだけで実施しているわけではなく、内容や、事前準備、運営までをボランティアリーダーと共に作り上げています。

ボランティアリーダーに興味のある方、子どもたちと思いきり遊んだり、子どもたちのために何かしたい!!と

思っている方!一緒に活動をしませんか?経験がなくても全く問題ありません!対象は18歳以上の大学生・専門学校生です。

「ボランティアリーダーってどんなことするの?」「わくわくビレッジってどんなところ?」「今までどんなキャンプをしてきたの?」など、詳しい話を聞きたい方、ぜひご連絡ください!!

【対象】

18歳以上の大学生・専門学校生
※リーダー登録後、活動に関わる来館時の交通費支給

【問い合わせ】

お電話またはメールにて
042-652-0911
event@wakuwaku-village.com

詳しくはお電話またはホームページにてご確認ください

高尾の森わくわくビレッジ

042-652-0911

〒193-0821 八王子市川町55
www.wakuwaku-village.com

高尾の森わくわくビレッジはYMCAスタッフが運営しています